

診療アウトライン

小児外科の手術は診療実績に示すように、脳と心臓を除く全身のほとんどの臓器を対象とします。2021年1月～12月の期間で、総手術件数537例行っており、関西2府4県の大学附属病院の中で第1位の手術症例数を誇ります。

当科の特徴としては、小児に優しい、最先端8K内視鏡外科システムを用いた低侵襲手術を提供していることで、総手術件数の実に半数近くの243例が内視鏡外科手術であり、そのほとんどがこの8K内視鏡外科システムによる手術です。このように積極的に低侵襲内視鏡外科手術を導入することにより、小児への傷を小さく、少なくし、痛みや術後の回復に影響する周術期の侵襲を極めて少なく抑えており、患児のQOL向上に大きく寄与していると考えています。



CLINICAL REPORT 2022

 関西医科大学附属病院
KANSAI MEDICAL UNIVERSITY HOSPITAL

小児外科

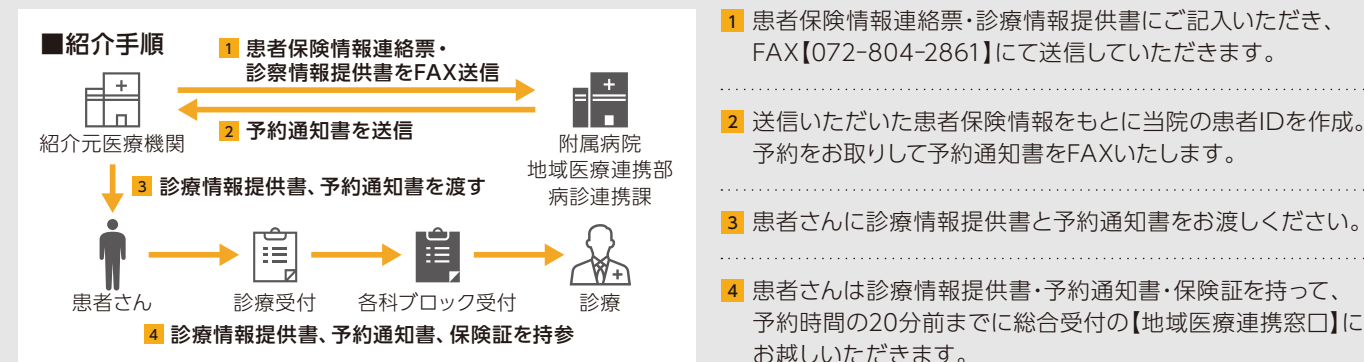
診療教授

土井 崇 新生児外科および小児外科全般

准教授

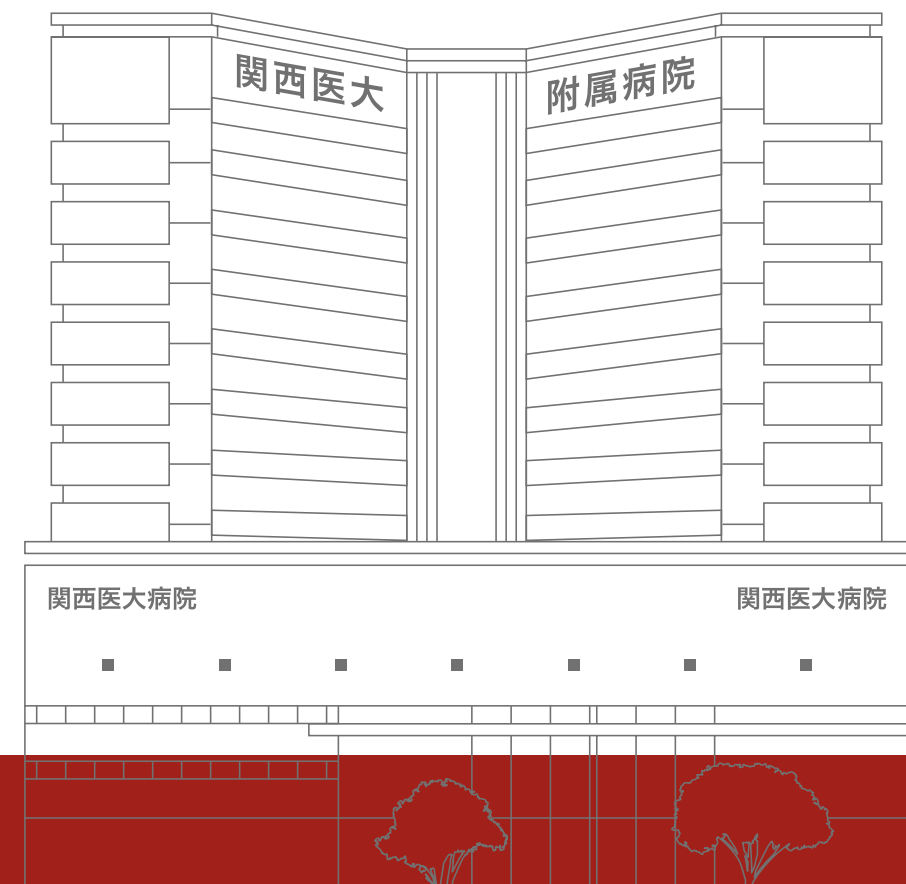
中村 弘樹 胆道閉鎖症、横隔膜ヘルニア

患者さんの紹介について



- 1 患者保険情報連絡票・診療情報提供書にご記入いただき、FAX【072-804-2861】にて送信していただけます。
- 2 送信いただいた患者保険情報をもとに当院の患者IDを作成。予約をお取りして予約通知書をFAXいたします。
- 3 患者さんに診療情報提供書と予約通知書をお渡しください。
- 4 患者さんは診療情報提供書・予約通知書・保険証を持って、予約時間の20分前までに総合受付の【地域医療連携窓口】にお越しいただけます。

※診療科、診療日、医師の指定がある場合は、FAXにご記入ください。
※用紙請求については当院ホームページよりダウンロードいただくか、下部の連絡先にご連絡いただけますようお願いいたします。
※受付時間 平日 8:30～20:00/土曜日 8:30～12:30



診療実績 (2021年度)

外来新患者数	1,149人	入院新患者数	585人
外来延患者数	5,097人	入院延患者数	2,270人



治療成績 (2021年度)

内視鏡外科手術件数/総手術件数 243/537例
 関西2府4県の大学附属病院内で2年連続第1位の小児手術症例数

新生児手術		乳幼児・学童手術	
腹腔鏡下巨大結腸症手術	6件	腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術	137件
気管切開術	5件	ヘルニア手術 臍ヘルニア	79件
結腸人工肛門造設術	5件	停留精巣(睾丸)固定術	68件
回腸人工肛門造設術	3件	腹腔鏡下虫垂切除術	57件
腹腔鏡下鎖肛手術(腹会陰)	2件	中心静脈注射用カテーテル挿入	29件
胸腔鏡下先天性 食道閉鎖症根治手術	1件	癒合陰唇形成手術	17件
胸腹裂孔 ヘルニア手術(経腹)	1件	腹腔内ドレナージ	14件
仙骨部奇形腫手術	1件	尿管摘出術	11件
		胃瘻造設術 (経皮的内視鏡下、腹腔鏡下含む)	5件
		幽門形成術 (粘膜外幽門筋切開術を含む)	5件
		腹腔鏡下総胆管拡張症手術	4件
		腹腔鏡下腹腔内 停留精巣陰嚢内固定術	4件
		子宮附属器腫瘍摘出術	3件
		腹腔鏡下胆嚢摘出術	3件
		膀胱尿管逆流症手術 (治療用注入材)	2件
		胸腔鏡下肺切除術(部分切除)	1件
		後腹膜鏡下腎盂形成手術	1件
		後腹膜腫瘍摘出術 (腸切除を伴わないもの)	1件
		先天性胆道閉鎖症手術	1件
		総胆管拡張症手術	1件
		肺悪性腫瘍手術(部分切除)	1件
		腹腔鏡下噴門形成術	1件
		漏斗胸手術 (胸骨拳上用固定具抜去術)	1件

トピックス

■最先端8K高精細内視鏡外科システム

小児外科は2019年5月に、最先端8K高精細内視鏡外科システムを導入しました。国内では旭川医科大学に続いて2番目、関西では初の導入事例となり、また小児外科としては国内初となる8K内視鏡外科手術を成功させました。以降、現在本学附属病院で行っている小児外科手術のうち、約半数をしめる低侵襲内視鏡外科手術のほとんどは、この最先端8K高精細内視鏡外科システムを用いて行っています。国内初の小児外科8K内視鏡外科手術の様子は、2019年6月に関西2府4県に向けて放送される「NHKニュースほっと関西」で取り上げられ、大きな反響を得ました。そのすぐ後には、全国に向けて「NHKニュースおはよう日本」で特集が組まれ、日本各地に放送されました。その放送での内容は、本学外科学講座のホームページ、または附属病院のホームページから、いつでも録画を観ることができますので、御参照ください。これまでのフルHDが「きれいな画像」だとすれば、8Kスーパーハイビジョンは「実際の臓器が目に見えるかのような画像」だと言えます。まさに8Kの超高精細映像は圧倒的な臨場感、そして現実の物と見違ふほどのリアリズムをもたらします。8Kスーパーハイビジョンは肉眼で識別し得る限界に迫っており(視力4.27に相当)、その高精細な映像から、従来の2Kや4Kでは確認し得なかった微細な血管や神経まで鮮明に同定することが可能となり、術中の不用意な操作による出血の回避と、出血時に対する迅速かつ確かな止血処置の効率を飛躍的に向上させることができます。術中における微細な血管および神経損傷をより確実に回避できることが、術後各臓器の「機能温存」を可能とし、特に小児外科手術の対象となる、これから長い人生が待っているまだ幼い小さな患者さんへの外科医療サービスにおいて、その重要な医療の質の大きな向上に繋がります。2021年度は、関西2府4県の大学附属病院の中で第1位の小児手術症例数を誇る施設となり、関西を代表する最先端の小児外科医療を提供する施設となることを目標に掲げている私達にとって、大きく飛躍する年となりました。引き続き北河内医療圏の皆様の御期待にお応えしていくことはもちろんのこと、関西2府4県、ひいては日本全国から多くの手術希望の患者さんにもそのサービスを充実していくべく、今後も努力して参ります。

